

(様式1・小学校用①)

令和5年度 学校評価報告

草加市立八幡北小学校
(令和6年2月9日作成)

1 学校教育目標 なかよく (徳) かしこく (知) たくましく (体) 知・徳・体の調和がとれた笑顔あふれる八幡北小	
2 重点目標・努力目標 (1) 3つの大切 (自分・相手・感謝) ①自己肯定感自己有用感の育成 ②学級経営 ③道徳教育 ④特別活動 ⑤人権教育の推進 (2) 3つの力 (好奇心・考える力・粘り強さ) ①主体的・対話的で深い学び ②カリキュラムマネジメント ③総合的な学習の時間の充実 ④読書活動・読み聞かせ ⑤各種学習状況調査の分析・活用 (3) 3つの育ち (命・健康・体力) ①豊かなスポーツライフ ②自分の生命を守り育てる ③基本的な生活習慣の確立	3 前年度の成果と課題 成果 ○全国学力学習状況調査の内容・結果や、埼玉県学力学習状況調査の帳票を基に授業改善を行ったことで草加市学力学習状況調査では一定の成果を得た。 ○主に生活科の学習を通じて地域との交流を深めることができた。 課題 ●組織的な生徒指導体制を構築し、深い児童理解に伴う積極的生徒指導を学校全体で実施する。 ●体験活動を道徳教育充実させ、子どもの社会性や道徳性を育ててほしい。(学校関係者評価)

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	A	○職員が主体的に学校運営に参画することで、校務分掌の組織が活性化した。 ●次年度教育課程及び日課等の検討に伴い、諸会議等の時間・業務精選を推進する。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	B	○「算数の〈筋道を立てて考える力〉の育成」に関わる研究を通して、授業改善が図れた。成果の一端を、県南部地区算数数学研究協議会で外部の方々に見せることができた。 ●指導と評価の一体化に基づく授業力の向上
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○マニュアル等を配付・周知することで、適切な管理・点検を行った。 ●緊急時における様々な事案を想定し、危機管理マニュアルを、引き続き見直ししながら運用していく。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	A	○教職員事故防止研修を定期的実施し、情報の適切な管理・運用に努めた。 ●全教職員が主体となった施設設備の維持・管理
	⑤地域との連携 開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	B	○サタデースクールでの学校公開と、全ての学年で公開学習や参加型学習を実施した。 ●地域との関わりがより活性化できるよう、読み聞かせや学習サポーターを充実させていく。
	⑥幼保小中を一貫した教育	・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	B	○定期的に幼保小中連絡協議会を実施した。また、入学・進学に伴う情報交換を幼保・中と行った。 ●異校種間における連携事業の見直しにより、効果的な行事等を計画立案する。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の実態に応じたカリキュラムの編成ができた。実施した内容を次年度に生かすために加筆しながら教育計画を運用した。 ●教科等横断的な視点を重点に置いたカリキュラム作成
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○算数の研修を通して、主体的・対話的で深い学びの実現を図り、年間を通して思考力・判断力・表現力を育成した。効果を検証し、一定の成果が見られた。 ●指導と評価の一体化に基づく授業力の向上
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業でのご指導を基に、考え議論する道徳に向けた授業改善を行った。 ●教育活動全体を通じた道徳教育の充実。そのために年間指導計画への明確な位置付けを行う。
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 各教科、道徳教育との関連 中学校との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の振り返りから、コミュニケーションの大切さについて理解を深める児童が増えた。 ●ALTとの連携をより効果的にする。そのために打ち合わせ時間等が確保できるようにする。
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 児童会活動 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○異学年交流を多く行い、発達段階に応じた豊かな心の育成を目指す指導を継続して行った。 ●児童の願いを主体とした特別活動の更なる充実。 ●どの学年においても、話し合い活動を充実させるため、研修等を通して指導力を高める。
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○全学年で指導計画を見直し、指導内容の充実を図った。 ●地域との交流を深めるための教科等横断的なカリキュラムの作成
	⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、児童理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○外部人材を招いていじめ防止対策委員会を確実に実施し、一つ一つの事案や様々な事例について話し合った。 ●組織的な生徒指導体制を構築し、未然防止と組織的な初期対応を徹底する。
	⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 計画の立案 指導内容の充実 中学校との連携 啓発的経験の充実 家庭、地域との連携強化 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリアパスポートを活用し、発達段階に応じた「めあて」の設定やふりかえりを行い、児童が主体的に自身の成長を見つめることができた。 ●中学校教員と連携したキャリア教育の実施
	⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援教育コーディネーターを中心に、児童理解研修等を定期的実施し、児童一人ひとりにより効果的な指導を行った。 ●個別の支援計画の充実と確実な引継。
	⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画、支援計画の作成 図書館補助員の活用 諸機関との連携 図書館の整備 図書館利用の工夫 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○図書館司書を中心に学校図書館のイベントを開催したことで、前年度に引き続き、貸出冊数が増加した。 ●蔵書の計画的・定期的な点検・整備
	⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画の作成 校内研修の充実 ICT機器の積極的な活用 情報モラル教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○授業等でタブレットの積極的・有効の活用に努め、学習意欲と児童の情報活用能力が高まった。 ●生徒指導の未然防止に関わる、情報モラル教育の実施
	⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の策定 各教科との関連 人権感覚の育成 校内研修の充実 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○夏季休業中に教職員の人権感覚育成をねらいとした研修を実施した。 ●人権教育・道徳教育を柱とした人権感覚の育成

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	①一人ひとりを大切に した生徒指導・教育相談	・豊かな体験活動	B	○生徒指導共通指導事項を見直し、適宜全体で共有した。 ●SNS・アプリ内のトラブルの未然防止のため、外部講師による情報モラル教育授業の実施を計画する。
	②学力の向上	・授業改善	A	○夏季休業中に、全国・県の学力学習状況調査の結果を用いた研修会を実施し、全学年で結果を考察し、学力向上に資する授業改善を行ったことで、市の学力学習状況調査では全実施学年で一定の成果を得ることができた。 ●理科の指導力向上と、問題を科学的に解決するために必要な資質・能力の育成
	③地域と共にある学校づくり	・地域ともに行う教育活動	B	○地域の積極的な協力があり、登下校見守り・生活科の学習等を通じて地域との交流を深めることができた。 ●地域との関わりがより活性化できるよう、読み聞かせや学習サポーターを充実させていく

5 総合評価 (学校関係者評価を含む)

本校は、「なかよく かしこく たくましく」の学校教育目標のもと、知・徳・体の調和のとれた笑顔あふれる八幡北小学校づくりに励んだ。

- ・令和5年度は、「算数の〈筋道を立てて考える力〉の育成」を研究主題とし、協働的な学習や、根拠や推論を基に表現する活動を充実させ、児童の資質能力を育成する研究に励んだ。
- ・地域の積極的な協力があり、登下校見守り・生活科の学習等を通じて地域との交流を深めることができた。
- ・地域との関わりがより活性化できるよう、読み聞かせや学習サポーターを充実させていくことが次年度への課題として挙がる。

6 次年度の改善策

児童一人ひとりを大切に、知・徳・体の調和のとれた児童の育成を目指し、学校・家庭・地域が同じ方向を向いて教育活動を推進できるよう、組織や教育計画を一層充実させる。

- ・令和5年度に引き続き、保護者や地域の方々の思いや力を、児童により伝え、あいさつという形で地域とかかわりあえるようあいさつ運動等の充実を図る。
- ・全教員による諸調査の分析と、段階的な教科担任制に取り組んだことで、教育活動の改善と教育課程全体の質の向上が図れた。次年度はより効果的な教科担任制を実施し、教職員の負担軽減と授業力の向上を目指す。
- ・組織的な生徒指導体制を構築し、未然防止と組織的な初期対応を徹底する。
- ・教職員事故0を目指し、ショート研修会を次年度も継続的に実施する。